

我が県土
支え育む
希望郷



美しい

県土づくりNEWS

2020年

1月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第186号
令和2年1月31日発行
編集 県土整備企画室

目次

- 2 いわて三陸復興フォーラム
内陸報告会における活動報告
- 4 いわて三陸復興フォーラム
沿岸報告会における活動報告及び現地視察
- 6 いわて花巻空港 給油施設の移転整備が完了

三陸復興

令和元年度 いわて三陸復興フォーラム 間もなく9年、復興のこれから

令和2年1月26日（日）、27日（月）の2日間にわたり、令和元年度いわて三陸復興フォーラムが開催されました。26日（日）の全体会（盛岡市）では、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんによる基調講演と、三陸地域で活躍する3名のパネリストによるパネルディスカッション行われました。27日（月）は内陸報告会（盛岡市）と沿岸報告会（釜石市）に分かれて開催され、応援派遣職員等による活動報告や片岸海岸防潮堤等の現地視察が行われました。



いわて三陸復興フォーラム 内陸報告会における活動報告

県土整備企画室

令和2年1月27日(月)、盛岡市のサンセール盛岡において、令和元年度いわて三陸復興フォーラムの内陸報告会が開催されました。

はじめに、兵庫県立大学大学院の室崎益輝教授により「災害復興と社会創造 阪神・淡路大震災25年の教訓として」と題した基調講演が行われ、続いて、いわて県民計画(2019~2028)長期ビジョンで掲げる「より良い復興~4本の柱~」である、「安全の確保」「暮らしの再建」「なりわいの再生」「未来のための伝承・発信」に基づく復興の取組について、応援派遣職員による活動報告が行われました。

県土整備部からは「安全の確保」分野の取組について、県北広域振興局土木部河川港湾課の山本浩輔技師(派遣元:栃木県)と都市計画課の横山朋大技師(派遣元:東京都)の2名が、自身の業務について活動報告を行いました。

県北広域振興局土木部河川港湾課 山本 浩輔 技師 (派遣元:栃木県)
「水門・陸閘自動閉鎖システムについて」



業務成果報告

水門・^{りっこう}陸閘自動閉鎖システムについて

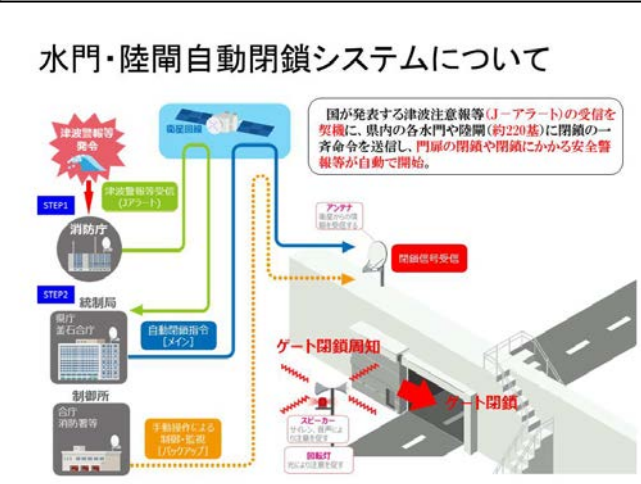
令和2年1月27日
県北広域振興局土木部
山本 浩輔

陸閘について③

陸閘には挟み込み防止装置が付いています。ゲートが開まっているときに人や車などが接触すると少しの間、ゲートが停止します。数秒後に再び自動で閉まり始めます。

ゲートの動く方向

挟み込み防止装置





県土整備部都市計画課 横山 朋大 技師 (派遣元：東京都)
「復興支援の取組について」



いわて三陸復興フォーラム

復興支援の取組について

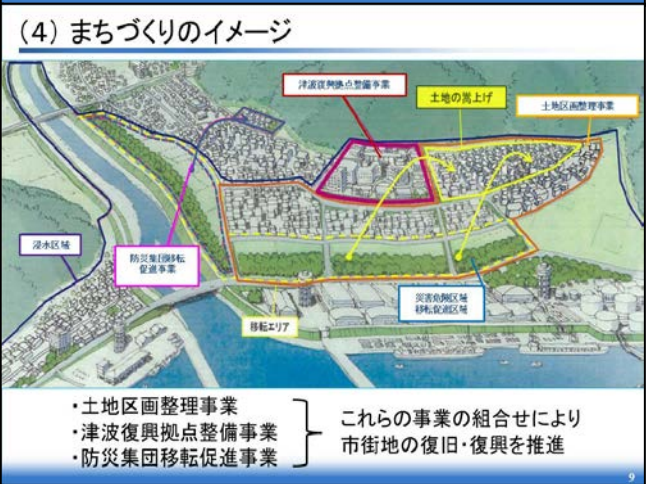
岩手県県土整備部都市計画課 技師 横山 朋大
(東京都より派遣)

令和2年1月27日

(2) 防災まちづくりの基本的な考え方(岩手県)

分類	回避型	分散型	抑制型
ねらい (巨大津波 に対して)	生命と財産を守る	生命を守り、財産の多くを保全する	生命を守り、財産の壊滅的被害を防ぐ
イメージ	宅地造成 高所移転 被災集落	嵩上げ・高所移転 再生市街地 分散 被災市街地 防災施設	嵩上げ・高所移転 道路 鉄道 再生市街地 抑制 被災市街地 防災施設
	津波エネルギー	津波エネルギー	津波エネルギー

出典：岩手県東日本大震災津波復興計画 復興基本計画(平成23年8月岩手県)



いわて三陸復興フォーラム 沿岸報告会における活動報告及び現地視察

沿岸広域振興局土木部

令和2年1月27日（月）、釜石市の釜石PITにおいて、令和元年度いわて三陸復興フォーラムの沿岸報告会が開催され、一般・県関係者合わせて38名が参加しました。

沿岸広域振興局土木部からは、復興まちづくり課の奥平周示主査（派遣元：東京都）、岡島雄一郎主査（派遣元：静岡県）、桑原直哉主任（派遣元：静岡県）の3名が活動報告を行いました。

特に、宮城県、福島県、岩手県で通算7年間復興事業に従事した奥平主査の報告は非常に興味深く、参加者が聴き入る姿が見られました。3名の活動報告からは、応援派遣職員として復興事業に取り組む熱い想いが伝わり、発表後には会場から大きな拍手が湧きました。

また、午後には管内現地視察として、東日本大震災津波からの災害復旧事業により整備した片岸海岸防潮堤の見学が行われ、参加者は防潮堤の天端（てんば）を歩いて見学し、案内看板を使った職員の説明に耳を傾けました。

沿岸広域振興局土木部復興まちづくり課 奥平 周示 主査（派遣元：東京都） 「被災3県において応援派遣職員として津波防護施設の復旧・復興に従事して」



【三陸復興フォーラム】

被災3県において応援派遣職員として
津波防護施設の復旧・復興に従事して

あつたけ岩にカワドアアウト

岩手県沿岸広域振興局土木部
復興まちづくり課 奥平周示(東京都派遣)

【宮城県気仙沼土木事務所において 平成25、26年度】

宮城県気仙沼土木事務所

宮城県気仙沼土木事務所

道防への取組を拡充してもらうために

宮城県職員と協働中

道防整備状況

希望をつなぐために

【岩手県沿岸広域振興局において 平成29、30、令和元年度】

岩手県沿岸広域振興局土木部

日本一の規模 その巨大さに現場は困難の連続

ラグビーワールドカップ開催時点で水門（津波防護施設の確保）ができることが必須（rwco19組織委員会）

奥住居川水門は
スタジアムの防護ライン

甲子川水門は
ファンゾーンの防護ライン

工期短縮やらねばならぬ

東宮内 船に囲む岩工 土留も船でついで協力
(岩手県沿岸広域振興局土木部委託中)

宮城県の復興技術学校で天候対策

希望をつなぐために

沿岸広域振興局土木部復興まちづくり課 岡島 雄一郎 主査 (派遣元：静岡県)
桑原 直哉 主任 (派遣元：静岡県)
「鵜住居川水門及び甲子川水門における津波防護機能の発現について」



左：岡島主査 右：桑原主任

鵜住居川水門及び甲子川水門における津波防護機能の発現について

岩手県沿岸広域振興局土木部復興まちづくり課復興第二チーム(静岡県派遣)
主査 岡島 雄一郎
主任 桑原 直哉

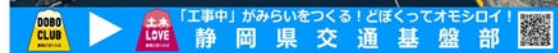


EPS工法 施工状況

現場微調整(切断)



接着剤塗布



片岸海岸防潮堤現場見学の様子



いわて花巻空港

給油施設の移転整備が完了



県土整備企画室

いわて花巻空港では、施設が老朽化（供用開始後 36 年経過）し、更新が必要となった給油施設を現ターミナル地区に移転整備しました。

<整備概要>

(1) 整備内容

ア 移転場所 現ターミナル地域内 除雪車庫の北側用地（県有地 3,500 m²）

イ 規模・構造

- ・基本施設 オイルタンク 200k 1×2基（旧：200k 1×1基）、非常用発電機
- ・付帯施設 給油車両積卸場、給油ポンプ、油脂庫・機材庫、駐車場・洗車場

(2) 事業主体 岩手県空港ターミナルビル株式会社

(3) 工期 令和元年 5 月 20 日から令和元年 12 月 20 日

(4) 事業費 310,000 千円（うち県補助金 99,809 千円）

<期待される効果>

(1) ターミナルエリアへ移転したことによる、作業効率の大幅な向上。

(2) 200k 1 のオイルタンクを 2 基整備し、燃料供給量が倍増したことによる国際線の誘致拡大。

(3) 非常用発電設備を新設したことによる、災害対応時の給油能力の向上。



<完成したオイルタンク 2 基>



<給油車両積卸場（手前）と給油ポンプ室（中央）>

